



# 瀬田の丘

創刊 1973年

編集・発行／カトリック瀬田教会信徒会広報部  
東京都世田谷区瀬田 4-16-1



主日の説教

今日のみことば

主の公現 B年(2024年1月7日)

瀬田教会主任司祭 小西広志神父

第一朗読：イザヤ書 60章1—6節

第二朗読：エフェソの信徒への手紙 3章2、3b、5—6節

福音朗読：マタイによる福音書 2章1—12節

## 主は光

三つの朗読から

第一朗読の「光」(3節)に注目してください。輝く光は神の栄光の表れです。同時に、人はその光のもとへと吸い寄せられていきます。

第二朗読の「秘められた計画が啓示によってわたしに知らされました」(3節)から、神が、秘密を明らかにしてくださる方、そんな神であることがわかります。

福音朗読にある「拝みに来たのです」(2節)は、神を求める人が抱く、最初の想いではないでしょうか？

『マタイによる福音書』だけが伝えるのが、この占星術の学者たちの礼拝です。

全体は三つの段落から成り立っています。①1—2節で、東方の占星術学者たちが登場する様子。②3—8節の、学者たちの言葉に対するヘロデの反応。③9—12節は、学者たちと幼子イエスとの出会い。三つの段落に共通するのは「星」と「拝む」となります。

1節に「占星術の学者」とあります。フランシスコ会訳では東方の博士たちとなっています。ギリシア語の原文は「マーゴイ」。占い、占星術、医術をおこなう学者たちを表す言葉です。

彼らは、イスラエルの民のように神の言葉に根拠をおかず、星の運行から世界を見ようとしていました。ですので、彼らは異邦世界の典型的な人物像と考えられるでしょう。

教会の伝承に従えば、贈り物の数から、学者たちは三人であったとするのが一般的です。名前は次の通りです。メルキオール Melchior (黄金。王権の象徴、青年の姿の賢者)、バルタザール Balthasar (乳香。神性の象徴、壮年の姿の賢者)、カスパール Casper (没薬。将来の受難である死の象徴、老人の姿の賢者)。

占星術の学者たちにとって、星は身近なものでした。星を通していろいろなことを知り、未来を占っていたからです。同時に、星は自分たちを超えた何者かがあることを暗示していました。なぜなら、星を運行する存在、すなわち、星をつかさどるものが存在しなければ、星の意味を知り得ないからです。東方の国で星を眺めている学者たちは、知らず知らずのうちに神への憧れを深めていったのではないのでしょうか。

その星が、彼らを導きます。もう戻ることのないかもしれない旅へと出かけるのです。それは星の瞬き、小さな光へと魅せられて、引きよせられていったからです。

彼らは星を見失います。自分たちの判断基準、価値観、世界観を見失ったとき、彼らの前に現れたのは「神の言葉」でした。彼らはことばを頼りに出かけていきます。

星に新たな意味が加わりました。星が言葉を頼りにして生きていく人間にとっての指標、つまり道しるべとなったのです。そして幼子イエスを礼拝します。彼らは言葉だけを頼りに生きていく人間へと変えられていきました。

## お知らせ

パスカル・藤田銀順神父さまが1月2日に修道院で帰天されました。お祈りください。

ヴィアンネ・南雲正晴神父さまが、老人施設から修道院に帰ってきました。お祈りください。

1月21日は「信徒総会」「新成人のお祝い」「新年の集い」です。

9時半のミサの後、アントニオ会館で行いますので、ご出席ください。

●なお、この日は8時半のミサはありません。